慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	電気工事業のシステム化 - N社事例研究 -
Sub Title	
Author	池田秀基(Ikeda, Hideki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 7907

学生氏名　池田秀基　　主査　伏見多美雄　教授
副査　柳原一夫　助教授
所属ゼミナール　柳原一夫研　　奥村昭博　助教授

電気工事業のシステム化 — N社事例研究 —

電気工事会社であるN社に、コンピューターを導入するにあたり、意思決定に必要な情報に焦点を合わせたシステムを構想した。

N社は典型的な電気工事会社であり、建築工事業界持有の"突貫工事的"な体質を持っていた。というのは、建築業は、一つ一つの仕事が仕様も、生産現場も全く異なるプロジェクトとしてあるため、標準化が極めて難しいからである。従って、システム化を行う時、何をその根拠としたらよいかを「現状分析」を通して探った。N社における意思決定を殆んど全て列記し、それら各々がどのような情報に支えられているかを見た。そして更に、それらの情報がどのような構造を持っているかを明らかにした。その結果、原価情報を数量データーとの関連で示すこと。そして、工程情報を数量データーとの関連で示すことの二つが要として浮き上ってきた。

一方、従来からのPERT系手法やMRPなどを概観すると、そのままではすぐにN社には役立たないことは明白である。しかし、それらの手法の持つメリットを生かすことは可能性が認められた。そこで、新システムの構想の中で、前述の数量情報を使って、これらの手法を一部を利用することを考えた。結果的に、より適切な情報を、より適切な場所に、より適切なタイミングで提供する、という基本原則を満すシステムが浮び上ってきた。